

## 2012 年度ゼンショープログラム留学成果レポート(要約版)

### 「日本の幼児教育のいくつかの特徴」

修士課程 2 年 V.T.T.

自分は、ベトナムの幼稚園・保育園における「つめこみ教育」に疑問を抱いている。ベトナムの現状に一石を投じるため、日本の幼児教育のあり方を参考にしたいと考え、日本に留学した。

留学中は、資料収集や研究者との面談を行ったほか、実際に保育園・幼稚園を訪れ、施設見学やインタビューを実施した。

幼稚園・保育園の双方を訪問する中で、所轄官庁や受け入れ条件は異なるものの、現場における幼稚園と保育園の教育・保育内容に実際には大きな差異はないことを実感した。以下、幼稚園教育要領・保育所保育指針も参照したうえで、自分が感じた日本における幼児教育の特徴をまとめる。

まず一つは、教育が教師ではなく子どもを中心に行われている点である。ベトナムでは、教師の指示に子どもを従わせる傾向があるが、日本の幼稚園教諭および保育士は、子どもの主体性や積極性を尊重し、子どもの自発性を引き出すため、活動に対する示唆・助言を与えるにとどまっている。これによって、子どもの創造的活動の活性化、仲間関係の自発的な構築などが可能になっていると考えられる。

次に、知育に多すぎる比重が置かれてはいない点を挙げたい。遊びを通しての知識の習得が推奨されていることもあるが、強制はされておらず、小学校入学前の準備教育色は希薄である。

もう一つ、国によるカリキュラム規定が比較的ゆるやかであることを挙げたい。具体的な教育・保育方法の決定は、現場に委ねられている。見学した保育園・幼稚園でも、施設ごとに教育方針は異なり、設立団体や自治体それぞれの特徴を有していた。保育園・幼稚園内にとどまらず、周囲の住民との人間関係の構築を推奨する園もあり、教育領域との関連性が重視されているようにも感じた。

日本の保育園・幼稚園にもむろん課題はあり、たとえば、保護者の収入が少ない場合の保育の困難、具体的には、学生夫婦の子どもは、保護者が働いていることを前提とする保育園への託児が困難な例などを挙げることができる。しかし、子どもの自発性を尊重し、知識教育よりも興味関心の形成や人間関係の構築を重視する日本の幼児教育は、アジアの国々の幼児教育に大きな示唆を与えてくれるものであり、ベトナムの幼児教育の改善に大いに参考になるものと考えられる。